


難関国立大推薦入試合格対談

志望校・学部を決めた時期と決め手は？

中西： 高1の頃、学校の先生との面談で「近畿圏内どこがいいかな。京大とか？」という風に使われて。一応、そこをずっと念頭に置いてきたって感じはあるんですけど、明確に決めた時期はないですね。京大を目指してその学力をつけておけば、他の学校でも受けられるんじゃないかという意味で、ずっと京大を目指してきたって感じです。

作業療法にしたのは、医療関係に携わりたいって気持ちがずっとあって、そこで自分がやりたいことって何かなって考えた答えがリハビリテーション。そう思い始めたのが高1かな。そこから理学療法と作業療法の二択でずっと揺れていました。きちんと調べて「作業療法にしよう」と思ったのは高3の夏です。推薦の自己推薦文を書く時に改めて考えて決めました。京大の医学部人間健康科学科は、入学してから専攻を決められるんです。それも京大を志望した理由の一つです。

大井： 私は、高1高2の頃は国際系と考えていて、東京外大がいいかなと思っていました。一番初めは、姉が小学生の時の担任の先生が青年海外協力隊で、その話を姉から聞いていたからです。そこで興味を持ちました。中学でも英語が好きで、中3の時に国際政治や国際協力とかについて調べたのが学部を考えさせたきっかけです。でも高3になって学校の先生との面談で「国際協力に直接携わるのではなく研究がしたい、勉強をしたい」という話をした時に、「それなら国際系の学部じゃなくて経済学部は？日本の経済だけを学ばなければなくて国際経済も学べるし」と言われて。経済支援にも興味があったので志望学部を変えました。でもこの大学っていうのはなくて。友達に「お前、神戸っぽいやん」と言われて(笑)。そこから調べて決めました。

高1高2で、部活と勉強の両立で工夫していたことを教えて下さい。

中西： 部活命人間だった(笑)。そもそも勉強をしたのが定期テストの時のみでした。

大井： そうそう。同じ。

中西： 普段は塾でまず週2週3は絶対に勉強する。あとはその宿題をやったって感じですね。高1高2の『ハイレベル英語・数学』、高2の『古文』、そこで言われたことと宿題をやっていたら大丈夫っていう安心感もあった。“この先生たちが言っているんだから、これをやっていたらいいんだ”っていう。あとは部活に全力。ただ定期テストの期間はちゃんと勉強していました。数学は大変だったけど。

大井： 私もほぼ同じ。だけど、高2の真ん中ぐらいからちょっと焦りだして。塾とか定期テスト以外にでもたまに自習室に寄ったり家でもやるようにしていました。でもやっぱり定期テスト期間が一番集中して頑張ったかな。

中西： そうそう。短い期間だけど、そこだけ頑張ったら部活できるから。

部活をやっていて、よかったことは？

中西： “部活で頑張る勢い”みたいなものを、勉強の方にも向けることができるみたいなところがあったかなと思います。部活をやっているから成績悪いって思われなくなかったから。勉強もできたほうが、もっと胸張って部活できるし。だから夏まで頑張った。

大井： 私は高1高2の時は部活との両立が大変だっ

進学先
京都大学
**医学部
人間健康科学科**

中西 真咲さん

 向陽高校
合唱部

進学先
神戸大学
経済学部

大井 涼樺さん

 向陽高校
バスケットボール部

インタビュアー

 岡 哲司・渋谷勇太
(ACターミナル校カウンセリングスタッフ)

た。部活をやめていく子も何人かいて"どうしよう"と思ったこともあったんですけど。でも部活はやりたかったし、何かを最後までやり遂げるのがすごい好きなんです。嫌でも絶対最後までやりきりたいタイプで。それで続けて、高3の時には"部活も頑張りたいし勉強も頑張りしたい"とすごく思いました。引退してからも"部活で頑張った"っていう自信が勉強に向いたかな。

高3になってから部活引退までの受験勉強は？

中西： 駆け抜けた感じ。

大井： ずっと燃えてた。どっちにも燃えて。

中西： 合唱部は8月半ば、夏休みが終わるまで活動があって。文化祭もやることがあったし。だから、運動部の子たちがみんな先に終わっていく感覚はありました。夏休み最後の模試で、みんなが「夏休みあんなにやったのに」みたいなことを言ってる時に"夏休み、部活してたな…"って。同じ志望校の子や周りの子がやってる勉強量には絶対及んでなかったの、不安要素にはなっていました。模試が毎週のようにあって、周りが「前回の模試がこうだったからこう勉強している」みたいな中、起こることに対処するので精一杯って感じで。そこはきつかったかもしれない。かと言って、部活も手を抜けないので全力でやってた。

大井： 高3になってからは、部活やってて自習室行ってなかったら「あいつ来てない」って思われるんじゃないかとか考えて怖くて(笑)

中西： みんな自習室行くもんな。でも部活の後、夜行ったら寝ちゃうもん。

大井： 自習室行ってもダウンしてるんですけど、行かないとって。めっちゃ気にしてしまうタイプで。でも、いい意味で、それで自習に行けていたところもあったかな。

受験勉強全体を通して、しんどかった時期や、どうやって乗り切ったかを教えてください。

中西： 共テが終わる頃が一番きつかった。推薦の出願をして、書類選考(志望理由書など)が通って、面接を受けに行って。面接の結果が出る前に共テがあって。共テが終わったら面接の結果だけ出て。最終的に共テと面接合わせた結果が出る…みたいな。だから共テが終わった後、(一般入試に向けて)二次の勉強はしないといけなけれど、推薦がどうなってるのか気になって。気になっていると集中できないし、数学はやばいし。その時期が一番きつかったかもしれない。でもやるしかないってやってたかな。

大井： 私は共テも含めて一気に結果が出る形だったけど、共テ終わりは同じくしんどかった。あと、共テ直前もきつかった。やってない範囲ばかり目に留まるんです。特に倫政とか。参考書開いていたら"あれ？このページ読んでない"みたいなところばかり出てきて。そればかり気になって数学とかやっても集中できなかったり。科目が多いから一番きつかった。焦って。

中西： 暗記系とか特に。何見ても不安。どの模試を解いても不安だった。絶対知らない内容が一個は出てくるから。

大井： そう！出てくる！

中西： 網羅できるわけないって分かってても、一個でも多く取らなきゃと思っていると、知識が足りてないっていうのをすごく感じるから。それがどんどん共テに対する不安になって。

大井： ふたりとも倫政は自力でやってたしね。

中西： 私は11月に倫政に変更して。

大井： え？すごい！

中西： 地理がダメで。地理から倫政に変えたら次の模試で点数倍になった(笑)。変えて良かった。なんとかなる(笑)。

大井： いや、普通はなんとかならないから(笑)あと、勉強したのに全然点数が上がらないってことはいっぱいあった。特に共テ直前の学校でやる演習は数学でずっと苦戦して。周りで「上がったー」って騒いでる子たちがいて。崩壊(笑)

中西： やっぱり、部活を続けていたから乗り越えられたというのはあったと思う。合唱部の先輩たちは夏まで残る人が毎年多いけど、その中でも志望校に受かった先輩たちも多くて。それを見ていたので"やれることはいっぱいある"って思っていました。部活の中で後輩たちにもコンクール直前は特に「一日あったら変わる」っていうのをずっと言ってきた。受験勉強もそのメンタルでやるしかないなと思って。だから"一日前でも何かもう一個見ておけば出るかも"とか"今の状況は変えられない。だからこそこうしよう"っていうメンタリティーでいたかもしれない。それは大事だった。

大井： 私も、もうとにかく勉強するしかないみたいな感じで、乗り越えた感じですよ。

推薦入試にチャレンジしようと思ったのはいつ頃？

大井： 推薦を意識したのは早かったです。高1の時には。何があってもいいようにって。もし自分が志望する学部が大きく変わっても方法として使えるならって思って。だからこそ定期テストも頑張っていました。

中西： 推薦出そうって気持ちはあまりなかったんですけど、ただ、何かがあった時の為に成績は取るところとは思ってました。たぶん高2くらいのタイミングで渋谷先生から特色入試の話の一回聞いて、その時は"ふーん、そんなのがあるのか"くらいで終わってたんです。でも高3の1学期に相談した時にもう一回「推薦入試あるよね」って話になって。国語が得意だったから「小論文や志望理由書を書くのに向いてるんじゃないか」みたいな話をしてもらって。チャンスが一回増えるしって決めました。

大井さん、イギリスへの短期留学について教えてください。

大井： 行く前は、行くかどうかをすごく迷っていました。高2の2月3月頃だったので、もうすぐ高3なのに行ってもいいのかなって。留学制度があるっていうのは中1の頃から学校の先生から聞いていて、ずっと行きたいって思っていたのに高1の頃はコロナ禍で行けなくて。だからもう今回は行くって決めました。迷ったけど本当に行って良かったです。英語力が伸びるのはもちろんですけど、ダートフォー

ドってアジア系の人やアフリカ系の人やいろんな人がいて多様性も感じられました。英語力は、会話のスピードについていけるような力は少し身につけられたと思います。向こうでは、学校に行っている人たちと一緒に授業を受けて。オックスフォード大学を見に行くこともできました。大学がひとつの町みたいで。また行きたいな。ダートフォードで出会った人たちとは今も連絡を取っていて。向陽高校に来た時に、覚えてくれていてすごく嬉しかった。またそこで新しい友だちもできたし。英語ってすごいなって思います。

中西さんはすごく言語能力が高いよね。どうやって作り上げて来たものだと思う？

中西： いくつかあるとは思うんですけど「本」と「合唱」かな。まず本は、小さい頃から親に読み聞かせしてもらったりかしてずっと好きで。家の近くに図書館があったので小学生の頃は毎週1～2回行って、貸出カードギリギリまで借りて。"本を読む"っていうのが一日の中で大部分を占めてました。中学生になってもそんな感じで。やっぱりいろんな表現方法だったり言葉みたいなものは摂取しないと得られないから、それは大きかったと思うのがひとつです。もうひとつは「合唱」。合唱って、もちろん歌うんですけど、歌詞って言葉だから、"この歌が何を伝えたいのか"みたいなことをすごく考えながら歌うんです。その過程でいろんなことを調べるし。持論の中に"思考は全部言葉を介して行われている"っていうのがあるんですけど。相手に何かものを伝える時は、絶対言葉を介して伝えるし、相手もその言葉を自分の中で噛み砕いてその印象を受けるわけじゃないですか。その"言葉を渡す"っていうのを歌でやるのが合唱だし、そのためにいろんな表現方法を探したり考えたりするっていうのが合唱の工程の中のひとつで。そういう"考えて言語化する""言語化したものを伝える"っていうことを部活を通じて重ねてきたのはすごくプラスになったかなと思います。あと部長だったから、後輩たちに私が思ってることを伝える場面もいっぱいあった。その経験をたくさんさせてもらったのも部活の場が大きかったです。

おすすめの文房具とか、愛用していたものがあれば教えてください。

大井： 方眼のノート。あれ楽しい。数学とかめっちゃ綺麗に描けて楽しい。

中西： 私は、百均とかにある5色1組とかの付箋。倫政とか化学で使ってた。分からない用語とかがあったらそれに関するのを調べてメモしてペタッと貼っておく。自分の参考書・辞書みたいなになるので。英語でも、分からない単語が出てきたらその語源を調べたり。直接的には関係ないけど付随してる情報みたいなのを貼りました。時間はかかるけど、一つの物事に対する知識が増えるので覚えやすくなるし、自分で勉強している感じが楽しい。

大井： 赤本もすごいことになってて、びっくりした。

中西： 倫政もすごいよ。楽しいかどうかはその人によるけど(笑)。すごく書き込みがある参考書みたいになって、勉強してる感が出るんですよ。参考書に直接書き込んだら消せないから付箋で。厚みも出るから"私これだけやってきた"っていう自信にもなるし。やった量が目で分かる勉強は、自信につながりやすいなって思う。

Academy Campusに3年間通ってもらって、印象的だったことや思い出を教えてください。

大井: 友だちから他の塾の話も聞くことがあったんですけど、そこと比べて、"先生たちと自分たちの距離が近い"感じがします。他の塾は、結構放っておかれるところがあるみたいで。だからすごく感謝してます。

中西: うんうん。関りがある。面談の時しかしゃべらないみたいな塾も結構あるみたいで。

大井: その関りが私にとってはすごく嬉しかった。先生の癖が強いし(笑)。いい意味で。

中西: そう、分かる。面白い先生がいっぱいいるなっていう印象はある。授業受けてて楽しいから。全部。

大井: そう。全部楽しい。本当に。

中西: 全然面談とか関係ない時でも、行ったらしゃべってくれるし。結構そこで進路のちょっとした相談とかもさせてもらえるから。ちょっと不安があってもすぐそれを解消して勉強しに行けるみたいな環境だった。めっちゃ渋谷先生に話しかけに行ってたし。

大井: あと、授業。長沼先生の国語、すっ…ごい良かった！！

中西: そう！本気で！長沼先生の国語良かった！もう全人類受けてほしいくらい。ほんとそのくらい！あの授業があったから共テの国語をちゃんと取れるようになったなど、本気で思ってるので。選択肢の読み方、本文の読み方。ほんとすごい。

大井: 古文漢文とか特に。苦手ですって読めないんだろうなって思ってたんですけど、読めるようになった。最後ちゃんと点取れたし。

中西: 私も古文漢文の雰囲気は好きだったんですけど、国語の問題って苦手ではあった。"文学は好きだけど国語という教科は嫌い"みたいな感じだったんですよ。でも長沼先生の国語受けてから、問題を解くということに自信がついた。学校の古典の授業もすごい楽しく受けられるようになった。長沼先生が描いたイラストを貼って授業してくれるんですけど、それがもうすごい分かりやすかったから、自分でもノートにイラストを描いてその流れで自分が把握するっていうのをやったら、すごく楽しくなって。あれ、すごいなって思いました。

大井: 英語は、吉田先生が受験のための英語だけでなくネイティブの考え方とかも教えてくれて。もっと好きになった。ただの暗記じゃなくなって楽しかった。

中西: そうそう。文法暗記とかじゃなくて、こう考えるからこう書くこう読むっていう。世界が広がった、英語の。

大井: 数学は…恐怖(笑)

中西: でもめっちゃ先生つかまえてたやん(笑)。帰ろうとしているのを引きとめて。

大井: 怖いぐらい分かりやすかったから。

中西: 数学に対する知見がなさすぎて何がどういとか分からないけど、でも"そう解いたら解けるよな"みたいな気持ちになる授業。

大井: 数学こそ暗記でって考えてたんですけど、でも先生のやり方は暗記じゃなかった。他の問題に応用がきくからめっちゃ伸びました。一番伸びた。

中西: 私は数学できなさすぎて。数学の授業で3回泣いた(笑)。微分できなさすぎて泣いたし指数がわけわからなくなって泣いたし。自分で"もっとできない!"ってハードル上げて、うえーんってなってるのが大きいけど。でも、特に数Ⅲは塾でやってなかったらもっとやばかったなって思います。高1高2のハイレベル数学は、自信もって定期テストで取れたし。"これをやっているんやから学校の数学はいける"くらいの気持ちがあったな。

大井: 信頼が大きいよね。

大学に入ってからどんなことをしたいと思っていますか？

大井: パン屋さんでバイトをしたいです。

中西: 私もやるなら飲食かな。接客がしたいです。知らない人と関わるとかそこに関する経験があまりにも無いから。社会経験積んでおきたいよね。

大井: あとは留学。イギリスにはまた行きたいです。第二言語の希望はフランス語と中国語にしました。中国は近いけど意外と全く知らなくて。大学で経済に関してたくさん学んでから行ってみたいです。

中西: 私は合唱なり演劇なり、なにか芸術に関することはやりたいなって思います。あと、社会福祉に興味があって。そこに関係する人文学系の一般教養を勉強できる環境に行けるから、ちゃんと調べていろんな人にも話聞いて。そういうところに友達を作って、おしゃべりできる機会が持てたらなと思ってます。

頑張っている後輩へのメッセージをお願いします。

大井: 高1高2は部活の時間がすごく大事だと思います。でも、絶対定期テストはちゃんと「5」を目指すぐらいでやるべきだと思う。定期テストは大事。高3になって特に部活引退した後は、とりあえず量。毎日自習室に来て逃げ道を絶つ。結局、評定も4.6取れたので。

中西: エグい！この人！4.6とかどうやって取るの！？

大井: まあちゃん(中西さん)に言われたら嬉しい(笑)。何があるか分からないから。いざ推薦出すって時に評定足りないってことがないように定期テストは大事。

中西: 定期テスト大事っていうのは同感しかない。あとは、高校生って忙しくて、部活と勉強と私生活だけじゃなくて大学受験に向けてとか、考えることが中学の時より明らかに増えると思うんですよ。だからその分、自分のキャパシティをここって決めてやるんじゃないかって、ギリギリまで一回頑張ってみるのも大事な。勉強とか学校生活で無理できるのって、良くも悪くも今だけなんじゃないかって思うので、頑張りすぎるくらいでちょうどいい気がします。勉強にしる部活にしる、自分ができるマックスをちょっと超えるところまで一回頑張ってみてほしいなと思います。それをやったら俯瞰して物事が見えるようになるし。あと、全部楽しんでやれたらいいなって思います。嫌なことをや

るのってしんどいから。興味がなかったところがいきなり興味あるようになるんじゃないって、元々興味あったところを色々調べてるうちに一個新しいものが見えてきて、興味が出てくるはずだから。進路に悩んでるんだったら一個のことについて色々調べてみるとかしてみたら、また新しい道が見えてくるかもしれないし。学校の授業だって楽しいところ楽しいところって探して聞いてたらちょっと楽しくなってくるから。

編集後記 ~インタビューを終えて~



大井さんは、ACの授業での疑問点を残さないように頻繁に先生に質問をしている姿が印象的でした。特に数学は質問をする回数も多く、文系でありながらターミナル校でもトップクラスの成績でした。また、苦手だった国語も、長沼先生が授業で伝えたことを愚直に続け、共通テストでも良い結果を出していました。

中西さんは、合唱部部長として多忙な中しんどそうな時期もありましたが、その状況でも継続して通塾し計画的に勉強していました。記述模試で苦戦した為、とにかく共通テストで高得点を取って推薦合格しようと準備。京都大学の推薦という最難関レベルの志望理由書・面接・論文でしたが、見事に突破。戦略通りの合格となりました。

二人とも、ACを上手く活用したことが勝因の一つだったと思います。ACの授業やセミナーで言われたことを継続し続ける素直さと真面目さを持っていた二人。その能力が、継続して努力し続けることが求められる推薦入試での合格にプラスに働いたと思います。辛い時期には友人と励まし合いながら、見事難関大学の合格を勝ち取りました。

これから益々充実した大学生活を送ってください。本当におめでとうございます！

ACターミナル校カウンセリングスタッフ 渋谷勇太